

立神峡だより

紅葉に彩られる立神峡を目指して

昨年来、紅葉の移植を続け、約二百本の幼木を公園内各所に移植していますが、今回、縁あってふくろうの巣箱を設置したいとの申し出があり、快諾したところその人から紅葉約30本程ご寄贈頂き、火の広場や管理棟周辺に植栽しました。買えば相当な金額になりとても高価ですが、今まで自宅の庭に寄せ植えされた紅葉も秋には見事な紅葉が観光客を魅了することになると思います。これで一気に公園内の紅葉も増えるとともに、引き続き、植栽を継続し桜と紅葉の立神峡に名実ともになるように整備を傾注したいと思います。



榎の大木を伐採

公園管理棟の裏にそびえたつ榎の大木が有り、夏はその枝ぶりに緑の葉を一面に広げていますが、秋から冬にかけては一気に落葉し枯葉が周辺に散らばり屋根の雨どいを詰まらせ、ベランダの隙間に腐葉土となり朽ちらせる原因となっていました。また、火災が起きた場合、危険性があり今回、町との協議で伐採することになり、これで雨どいの清掃や各種の問題から解放されます。

伐採した榎は細かく裁断し、薪として販売します。また、小枝等はチップにしてカブト虫たちの寝床になり自然に変えることとなります。



コロナウイルスの影響が立神峡にも

中国武漢で発生したといわれる新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、ここ立神峡も例外ではなく、3月の宿泊はキャンセルが相次ぎ大幅な減少がみられました。スタッフ一同、衛生環境の整備に注力するとともに、消毒液の設置や加湿器による消毒・手洗いの確実を期するための張り紙の掲示などSNSによる発信を行っています。ニュースによると人込みを避けるためにキャンプ場が大賑わいとの情報もあり、災いを福と為すではありませんが、新緑そして桜の満開の季節を迎えてディスクゴルフや釣り・BBQなどに興じて心身ともに野外での活動の場として立神峡公園をご利用ください。



【お問い合わせ】 立神峡公園管理棟
☎ 0965-62-1543 FAX0965-62-1546 (8:30~17:30 火曜定休日)

ホームページ
<http://tategami-camp.com>

町民文芸

短歌

新型のウィルス感染拡大し
 間近の旅行に不安増すなり
 北野津 宮本 末秋

不知火に彼岸西風来る春日の日
 宇土半島は寝寂迦なるかな
 北野津 井田 道寛

沖縄の友より届く便りにも
 新型コロナ気付けてくれと
 西野津 古崎スエノ

待ち合い室窓より覗く煙突の
 春光の空に吐く煙
 西野津 古崎 栄子

年老へばお雛祭も過去のもの
 子らの華やぎ夢の彼方に
 西上宮 村内 一誠

頂きしシロップ漬けのザボン食ひ
 コロナウィルステレビ観てをり
 吉 本 高橋 澄子

生る日々囲りの人え感謝する
 思い高まる月日流れる
 上鹿島 前村 俊子

俳句

新型のコロナウィルス春嵐
 北野津 宮本 末秋

春満月うすむらさきの山の影
 北野津 井田 道寛

蒸し牡蠣の香りは遠き波の音
 西野津 古崎スエノ

両手あげ背のびしている春の庭
 町 香山菊童子

春雨や蕾膨らむ春の庭
 西野津 古崎 栄子

外に遊ぶ子等の声無き春休み
 吉 本 高橋 澄子

ひねもすを我が家で暮らさずめじろ二羽
 西上宮 村内 一誠

山積の悩み消ゆく春の川
 上鹿島 前村 俊子

詩

世界中新型コロナに振り回わされて
 野球相撲花見まで自粛モードに心痛む
 東上宮 H, O

考察 中野重治 愛しき者へ

法道寺 本田花風

『愛しき者へ』上下巻は、発行後まもなくの昭和六〇年二月十九日購入している。これもタイトルが気に入ったからであるが、一千ページ(文字の大きさは二ミリ程度)におよぶ質、量に於いても大作であった。本の裏表紙に鉛筆書でこう書いている。

〈昭和の風雪に耐えて、獄中から旅先から最愛の妻と肉親にあてて、書きつづけた人間中野重治の感動の未発表書簡集〉時が過ぎ、自筆ではあるがあまりにも見事すぎる。購入した時の、本の帯に書かれていた出版社のキャッチコピーだったに間違いなからう。

タイトルの冠を「考察」と体裁を繕ったが、たぶん編集になつてしまつたろうし、ながながと長文にもなるだろう。しかし、読手の皆さん辛抱なれ。

中野重治、プロレタリア作家で『甲乙丙丁』の作者。認識はこれくらいだろ。ただ書籍は全集など多少揃っているが、「甲乙丙丁」タイトルのイメージが色濃く重たい感覚を感じていた。

プロレタリア文学には関心があつて、小林多喜二、葉山芳樹などの人物像は多少知つている。抵抗への弾圧から転向せざるを得ない運動家には、多少の共感を持つていた。多喜二の『蟹工船』は、いつか読んでみたいと感じつつ、劣悪な環境で働く労働は読むには忍びない感覚があつた。多喜二は彼の作品中の、特高による拷問の描写が特高の憤激を買つて、後に壮絶な拷問死にいたることになる。

話は前後するが、多喜二は一九三三年、二十九歳死没。中野重治とのつながりが分かる話題がある。多喜二が獄中から書いてよこした歌のことが、妻政野からの十月七日付の手紙で知らせている。「小林さんの名歌を紹介します。この暑さ独房なれば種をもはずして居るがくせとなりたり。あんまり汚くて笑つてしまいました」と書かれてある。中野もまた獄中にある話である。

投稿について

- ・楷書で記入し、漢字には全て読みがなをふつて投稿してください。
- ・内容確認する場合がありますので電話番号を明記してください。
- ・毎月8日必着
- ※掲載は1人あたり短歌・俳句・詩のそれぞれ一句ずつとなります。
- ※遅れて投稿された場合掲載できない場合があります。あらかじめご了承ください。

投稿先

〒869-4814 氷川町島地642番地
 企画財政課 企画係
 ☎0965-52-5850

人権擁護・救済センターの 電話相談・面談のご案内

- 日時 4月6日、13日、20日、27日
(全て月曜) 11時～13時
- 場所 八代教育会館
- 内容 調査相談専門員による人権擁護・救済に関する相談・改善・解決
- 費用 無料

問 人権 NPO ちなもい ☎0965-32-3030